

令和4年度 札幌市エイズ対策推進協議会

議事録

日時 令和5年2月21日(火)19:00~20:30

場所 WEST19 2階大会議室

| | |
|---------------------------------------|---|
| ① 開会の辞 (寺田感染症 医事担当課長) | <p>それでは、これより令和4年度札幌市エイズ対策推進協議会を始めさせていただきますと思います。私は、本日進行を務めさせていただきます、保健所感染症医事担当課長の寺田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議ですが、対面とオンラインの併用のハイブリッド方式での開催を予定しておりましたが、オンラインでの参加希望者がいらっしゃいませんでしたので、対面開催となっております。</p> <p>本日の会議の終了時刻は、20時15分を予定しています。また本日の会議ですが、エイズ対策推進協議会規則に基づきまして、委員の過半数以上の方々に出席をいただいておりますので、開催ができるということをご報告させていただきます。</p> <p>また、本日の会議は公開をする形となっておりますので、よろしくお願いいたします。なお、本日は北海道新聞の記者も傍聴されております。それでは開会にあたりまして、札幌市保健福祉局医務・健康衛生担当局長の館石より、ご挨拶申し上げます。</p> |
| ② 開会挨拶 (館石医 務・健康衛 生担当局 長) | <p>皆様こんばんは。札幌市医務・健康衛生担当局長の館石でございます。皆様今日は、1日のお仕事を終えお疲れのところ、また生憎の天候の中をご出席くださりまして、誠にありがとうございます。</p> <p>この札幌市エイズ対策推進協議会ですが、ご承知のように札幌市におけるエイズの感染予防とまん延防止のために、多方面の委員の方にご出席をいただきまして、様々な問題についてご審議いただく場としてございます。</p> <p>今回は、任期中の委員1名の退任に伴いまして、新たに木寄委員をお迎えする体制となりました。木寄委員には委員に就任いただきありがとうございます。</p> <p>それから、このエイズ対策は何点か申し上げたいと思いますけれども、まずエイズの抗体検査につきましては、新型コロナウイルスの感染症流行に伴いまして検査を縮小してしばらく実施をしてございました。コロナの感染流行の鎮静化に伴いまして、現在はコロナ感染拡大前とほぼ同じような形で実施しているところです。受検者の方も徐々に戻ってきているようでして今後はこのペースで進めていきたいと思っております。</p> <p>また、治療につきましては、近年治療技術の進歩によりまして、感染を早期に把握して、早期に治療を開始し、しっかり継続していけば通常の方と変わらない生活が可能となっておりますけれども、こうしたアップデートされた情報・知識を普及するとと</p> |

もに、必要な方には速やかに検査を受けていただく体制を作っていくことが大切だと考えております。

委員の皆様には、それぞれのお立場から、どうか忌憚のないご意見を頂戴いたしますよう、お願い申し上げます。簡単ですが、開会のご挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いたします。

③ 出席者紹介
(寺田感染症
医事担当課
長)

ありがとうございます。それでは議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。

まず、はじめに別紙1の次第から始まって、別紙10の札幌市エイズ予防対策基本方針まで10種類の資料と、最後に今年度当課で作成し、性感染症を診療する科を持つ医療機関あてにお送りしたHIV検査啓発ポスターをお手元にご用意させていただいております。

では次に、はじめて顔を合わせる方もいらっしゃると思いますので、自己紹介を順番にさせていただければと思います。順番ですが、遠藤会長からということで、池田副会長、佐々木副会長、その次に天野委員、梅内委員と、名簿の上の方から順番に自己紹介を、よろしくお願いたします。

(遠藤会長)

北海道大学病院でHIV診療をしております血液内科の遠藤です。今日はよろしくお願いたします。

(池田副会
長)

札幌医大でHIVの診療をしております池田博です。よろしくお願いたします。

(佐々木副会
長)

NTT東日本札幌病院で薬剤師をしております佐々木と申します。よろしくお願いたします。

(天野委員)

札幌市歯科医師会で医療管理担当しております天野です。どうかよろしくお願いたします。

(梅内委員)

一般社団法人札幌青年会議所、梅内と申します。資料の方で、常任理事となっておりますが、今年度、副理事長という職をあずかっております。よろしくお願いたします。

(木寄委員)

はじめまして。北海道新聞くらし報道部の木寄と申します。よろしくお願いたします。

(後藤委員)

札幌市医師会地域保健部長の後藤です。よろしくお願いたします。

(坂本委員)

はばたき福祉事業団北海道支部の坂本です。はばたきは、薬害HIV感染被害者の支援団体です。札幌市の委託を受けてサークルさっぽろも運営しています。どうぞよろしくお願いたします。

(高原委員)

札幌市PTA協議会より参りました高原と申します。よろしくお願いたします。

| | |
|-------------------------|---|
| (谷口委員) | 札幌市立高等学校・特別支援学校 養護教諭連絡協議会、新川高等学校の谷口と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 |
| (沼田委員) | NPO 法人レッドリボン札幌の事務局長をしております沼田と申します。レッドリボン札幌は毎週火曜日の夜7時から10時まで電話相談をやっているのと、HIV 陽性者交流会などをやっております。本日はNPO の立場から参加させていただきます。よろしくお願いいたします。 |
| (藤枝委員) | Air-G FM 北海道というラジオ局で主に番組の方を担当しております、藤枝と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (満島委員) | Brast の副代表をさせていただいております満島てる子と申します。普段は7丁目のパウダールームという女装をしたい人向けのBARで店長をさせていただいております。Brast はHIV に関する啓発を様々な側面から行っていくというのを目的に活動させていただいているんですけども、去年は街頭ビジョンでのHIV の検査の誘導であるとか、YouTube への教材の提供であるとか、そういう形で関わらせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| (宮島委員) | 札幌市の養護教員会からまいりました発寒中学校で養護教諭をしております宮島みゆきと申します。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| (渡部委員) | 北海道大学病院の外来でHIV 担当看護師をしております渡部と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (寺田感染症 医事担当課 長) | ありがとうございます。それでは次に、私ども札幌市の方から事務局とオブザーバーということで、ご紹介をさせていただきたいと思います。名簿裏面の事務局の名簿順に、館石局長からお願いいたします。 |
| (館石医務・健 康衛生担当局 長) | 先ほどご挨拶申し上げました館石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| (山口感染症 担当部長) | 札幌市保健所の感染症担当部長の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| (葛岡感染症 総合対策課 長) | 札幌市保健所の感染症総合対策課長の葛岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| (寺田感染症 医事対策課 長) | 札幌市保健所で感染症医事担当課長をしております寺田です。よろしくお願いいたします。 |

| | |
|----------------------------------|--|
| (伊達結核対策係長) | 同じく札幌市保健所 感染症総合対策課 結核対策係長の伊達と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (小松保健師) | 同じく感染症総合対策課 結核対策係の保健師の小松と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (加藤保健師) | 同じく札幌市保健所 感染症総合対策課 結核対策係の加藤と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (斉藤地域保健・母子保健担当課長) | オブザーバーで参加させていただいております、保健所地域保健・母子保健担当課長の斉藤と申します。よろしくお願いいたします。 |
| (三上衛生研究所保健科学課長) | 札幌市衛生研究所保健課の課長の三上と申します。検査の方を一部担当させていただいております。よろしくお願いいたします。 |
| (寺田感染症医事対策課長) | <p>ありがとうございました。また本日、こちらの世界エイズデー札幌実行委員会委員長の高橋様にも、後ほど活動のご報告をいただくためにご出席いただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これより議事の進行につきましては、遠藤会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| ④ 議事進行 (遠藤会長) | <p>それではあらためまして皆さんこんばんは。4年ぶりの対面ということで、3年前と一昨年が中止になって去年がweb開催ということで、今回全員集まれたということで非常にうれしく思っております。ぜひ対面ならではの活発な議論をしていただきたいのと、ただ働き方改革というのもありますので、時間の方も守りながら円滑に議事を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、さっそくですけども本日の議事につきまして、会議次第のとおり報告事項が3題と協議事項が1題ございます。まず事務局と世界エイズデー札幌実行委員会から、報告事項3題と協議事項1題について、まとめてご説明をいただきまして、その後、委員の皆様から、ご質問等をお伺いしたいと思います。</p> <p>それでは、事務局、よろしくお願いいたします。</p> |
| ⑤ 報告事項説明 (伊達結核対策係長) ・報告事項1 | <p>事務局 結核対策係長の伊達でございます。</p> <p>はじめに、札幌市のエイズの現状について、ご説明いたします。こちらの前のスクリーンにもあるんですけども、お手元の資料としましては、別紙3をご覧くださいと思います。</p> <p>まず、はじめにI-1札幌市のHIV感染者・エイズ患者届出状況についてです。年次推移ですけども、令和4年はHIV感染者14件、エイズ患者5件の、計19件で、前年の22件から3件減少となりました。届出に占めるエイズ患者の割合、いわゆるいきなりエイズの割合は、令和4年は26.3%で、おおむね横ばいの状況でございます。</p> |

次に2番の性別年次推移にうつります。令和4年は、19件すべて男性という結果でございました。

次に3番、感染経路別年次推移です。グラフの赤色の部分が同性間 性的接触によるものが14件で、全体の7割以上を占めております。

次に4番、性別感染経路別累計です。平成元年から令和4年までの届出の累計を示したものです。赤い色の部分が感染経路が同性間 性的接触によるもので、男性HIV感染者では約8割、男性エイズ患者では約5割と、感染経路のうち最も高い割合を占めております。

次に5番、性別年齢階級別届出数です。令和4年は、HIV感染者については、30代~40代に主に分布しておりまして、これまで最多であった20代ではHIV感染者が発生しておりません。エイズ患者については、30代に集中しております。

次に6番の性別・年齢階級別累計です。水色で示している部分が男性HIV感染者、黄緑色で示している部分が男性エイズ患者ですが、ともに30代が多い状況となっております。また、60代以上のグラフを見ますと、黄緑色の男性エイズ患者の割合が多い状況となっております。

移りまして、次にI-2札幌市のHIV相談・検査状況についてご説明をさせていただきます。

まず相談・検査の体制についてですが、相談は、各区保健センターにエイズ専用相談電話を設けて対応しているほか、札幌市HIV検査・相談センターでありますサークルさっぽろでも検査時に相談対応をしております。サークルさっぽろの運営につきましては、札幌市から社会福祉法人はばたき福祉事業団の方に委託しております。

次に、検査体制ですが、令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、検査を一時中止したり、検査規模を縮小するなどを行っておりましたが、令和4年度は通常体制とほぼ同様といたしまして、中止することなく実施しております。

回数としましては、平日日中の検査を市内10か所の各区保健センターでそれぞれ月2回、夜間の検査は毎月第2火曜日に白石保健センターで実施、休日の検査は年2回6月と12月、それに加えてMSMを対象とした休日検査を年1回実施しております。これらは市の直営の検査でありまして、HIV検査にあわせて梅毒検査も同時に受けられる体制としております。また、毎週土曜日の検査については、はばたき福祉事業団の方に委託いたしまして、サークルさっぽろで、HIV検査を実施しております。

続きまして、年度別の相談件数です。令和4年度は1月までの集計となっております。過去3年分1月までで比較をしますと、サークルさっぽろは横ばい、保健所は昨年の約2倍の増加となっております。現時点で令和2年・3年度の相談件数を上回っている状況です。

次に、年度別のHIV検査件数です。平成30年度の梅毒検査開始以降、HIV検査数は増加しておりましたが、令和2年度・3年度はコロナ対策による検査の一時休止や規模縮小の影響を受けまして、コロナ流行前より減少しておりました。令和4年度は通常同様の体制と

いたしまして、1月時点で令和2年度・3年度の検査数を上回っております。なお、一次検査陽性者数ですが、令和4年度は、直営検査で6名、土曜検査で0名、計6名でございます。

まとめにつきましては、ただいまのご説明の繰り返しになりますので、割愛をさせていただきたいと思っております。

続きまして、I-3札幌市の梅毒患者届出状況についてです。まず1番、年次推移です。梅毒の届出件数は、全国の傾向と同様、平成25年頃から急増している状況で、令和4年の届出は439件、過去最高であった昨年の3.7倍となり急増しております。この傾向は国全体でも同様となっております。

次に2番、性別・年次推移です。令和4年は、男性が257件、女性が182件で、男性のほうが多い状況が続いております。

次に3番、感染経路別・年次推移です。令和4年は「異性間性的接触」が370件で、8割以上を占めております。

4番は省略させていただきまして、次の5番、性別年齢階級別届出数ですが、令和4年は無症状病原体保有者と患者ともに女性は20代が特に多く、男性は20代～40代が多い状況となっております。20代の患者数は、男女ともに令和4年は令和3年の約5倍になっておりまして、また、女性患者数は男性患者数を上回っております。

次に6番、性別・年齢階級別累計です。女性は20代が特に多く、男性は20代～40代が多い状況となっております。

続きまして、I-4札幌市の梅毒検査状況についてです。平成30年度から梅毒検査を開始しております。令和4年度は1月までの集計ですが、直営でHIV検査を受けた方850名のうちの96.8%にあたります823名が梅毒検査も一緒に受けられております。梅毒検査で陽性となった方は40名おりまして、医療機関への受診を勧奨しております。札幌市のエイズ・梅毒の現状についての報告は以上です。

次に、今年度のエイズ予防啓発キャンペーンにつきまして、実行委員会の高橋委員長にご報告をお願いしておりますのでお願いいたします。

⑥ 世界エイズデー実施状況報告（高橋実行委員長）

世界エイズデー札幌実行委員会の高橋と申します。令和4年度の世界エイズデー予防啓発キャンペーンについてご報告させていただきます。11月中旬から12月1日にかけて、オンラインとオフラインで4件のイベントを実施いたしました。スライドをご覧ください。まず1件目ですが、街頭大型ビジョンを使用してのキャンペーン広報になります。本協議会にご参加いただいております満島てる子さんにご出演していただき、札幌市内各所の大型ビジョンでHIV・エイズの差別・偏見の解消とエイズ検査の情報を提供いたしました。こちらの映像は15秒程度のもとなりますので、実際の映像をお流しいたいと思っております。ご覧ください。

～15秒動画再生～

地下歩行空間ですとか、札幌駅周辺、大通周辺にある大型ビジョン、役所ですとか、路面電車のモニターなどでも放映いたしました。

次にラジオでの広報についてご報告させていただきます。ラジオでの広報はこれまでも行っておりましたが、今年度はSTVラジオさんの方で、HIV・エイズを特集した30分番組を2週連続で放送いたしました。1回目の放送では、HIV・エイズの基礎知識とエイズ検査情報、2回目の放送では、HIV陽性当事者の方にHIVの感染を知ったときの気持ちですとか、治療、しっかり治療を行っていれば相手にHIVを移すことのないU=U、普段の生活の中で差別や偏見を感じる事などについて具体的にお話をいただきました。HIV陽性者の方が語ることで、リスナーのみなさんに身近な問題として感じていただけたのではないかと思います。

では、次のスライドをお願いします。次に学生向け講座の映像制作と配信についてご報告させていただきます。2018年度まで毎年大学生や専門学校生を対象に実施していた出張授業の内容を映像にまとめYouTubeで配信いたしました。

HIVとエイズの違い、HIVの感染経路、コンドームの正しい使い方、コンドームを相手に使ってもらうためのトークテクニック、HIV検査、U=Uの6本の動画と、その6本の動画を1本にまとめた総集編をYouTubeチャンネル、「レットリボンシアター」で今もご視聴いただけます。

次に、札幌市時計台のライトアップについてご報告させていただきます。今回はじめての取り組みとして、12月1日の世界エイズデー当日に札幌のシンボルである時計台をレッドリボンの赤色にライトアップしました。このレッドライトアップは全国各地で行われております。今後、様々な施設にご協力いただき、ライトアップの輪を広げることで市民の皆さんに世界エイズデーを認識していただけたらと思います。

最後に、まとめになりますが、今年度はオンラインやメディアを活用する形でのイベント実施となりました。来年度は新型コロナの状況をみながら、市民参加型のイベントも徐々に復活させ、HIVやエイズに関心をもってもらえる取り組みを検討していければと思います。

以上で終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

⑦ 報告事項説明（伊達結核対策係長）

・報告事項2

ありがとうございます。では、引き続きましてお手元の資料といたしましては、別紙4をご覧くださいと思います。

令和4年度の札幌市エイズ予防対策実施状況についてご報告いたします。主な取組をピックアップしてご報告いたします。まず、本協議会につきましては、先程もお話がありましたが、今年度は4年振りの対面での会議開催でございます。次に、普及啓発事業ですが、市民全般を対象にしたものと、個別施策層を対象にしたものを実施しております。市民全般を対象としたものは、ただいま高橋委員長からご報告いただきましたとおりでございます。他に今年度新たに行った取り組みといたしましては、みなさんのお手元にお配りしました性感染症に関するポスターを作りまして、昨年12月に市内の皮膚科、泌尿器科など363施設へ配布をいたしました。また、札幌

市医師会の広報誌である札幌通信 8月号に「医療機関における HIV 検査のご協力について」という表題で記事を掲載いたしました。札幌市 HP にもお知らせを掲載し、医療機関に対しての HIV 検査の啓発を行っております。

次に、相談・検査事業等についてでございます。今年度は検査を中止することなく、例年同様の体制で実施いたしました。MSM 向け検査につきましては、ハイリスク層ということで、私どもも大事にしている検査でございます。今年度につきましても、検査の周知や検査当日の相談員の派遣などを NPO 法人レッドリボンさっぽろにご協力いただきまして、定員 60 名のうち、44 名の方が検査を受けられています。

前回の協議会で話題となった郵送検査についてですが、こちらの方針といたしましては国のガイドラインが出てから検討することとしております。厚生労働省へ確認をしたところ、来年度から協力自治体でモデル的に郵送検査を行い、その後のガイドライン策定となるという回答がありましたので、その後、運用について検討したいと思っております。

⑧ 協議事項説明
(伊達結核対策係長)

続きまして、別紙 5 をご覧いただきたいと思っております。令和 5 年度の札幌市エイズ予防対策実施計画案についてご説明いたします。令和 5 年度につきましても、世界エイズデー札幌実行委員会やレッドリボンさっぽろと協働で普及啓発を行っていきたいと考えております。職員の研修につきましては、これまでコロナで従事者向けの研修を対面でなかなかできませんで、書面で実施という形にしておりました。一次検査で偽陽性が出た場合等に適切に対応できるよう、対面型での実施等、研修を強化していきたいというふうに考えております。また、検査事業につきましては、令和 4 年度は検査を中止、縮小することなく実施できたことから、コロナ流行前と同じ規模に戻すことといたしまして、夜間検査の定員を 25 名から 30 名へ、休日検査の定員を 60 名から 80 名へ、増員する計画でございます。

事務局からの説明は以上でございます。

⑨ 議事進行
(遠藤会長)

ありがとうございました。報告事項と協議事項をいっきにお話しいただきましたけれども、質疑・協議の前に高校での性感染症予防対策の取り組みについて報告がございますので、新川高校の谷口先生に 5 分程ご発言をお願いいたします。

⑩ 高校の取り組み報告
(新川高校谷口委員)

新川高等学校の谷口です。

早速ですが、本校及び高等学校での取り組みについてご報告いたします。いずれも新たな取り組みではなくて、本校で 10 年以上くらい前から継続して実施しているものです。

まず、高校 1 年生では保健体育の教科、保健科目の授業で「性感染症・エイズとその予防」という単元名で 1 時間の授業があります。本校では、6 月に授業を行っております。あと、高校 1 年生を対象に、毎年夏休み前の 7 月に「性感染症の予防」も含め「性の講演会」を実施しています。今年度は「急増している梅毒」についても

触れていただきました。講師には、昨年度、満島委員からご質問があった「札幌市思春期ヘルスケア事業」を活用しておりましたが、5年前からは活用する学校が増えて講師の継続派遣が無理ということでしたので、現在は札幌医科大学の産婦人科学講座にご依頼し医師を派遣して頂いております。

また、昨年度令和3年度から、札幌市教育委員会が市内の全ての中学校と高等学校を対象に「産婦人科医師及び助産師による講師派遣事業」を実施することといたしました。中学校では隔年での実施のようですが、高等学校は今年度全学校で実施予定です。講演内容例には「エイズ及び性感染症の予防」も含まれております。

高校2年生には札幌市男女共同参画課の事業「デートDV防止講座」を活用して、冬休み前の12月に講演会を実施しています。ここ数年は、事後の生徒アンケートで希望が多い「性の多様性 LGBTQ」なども含めた内容となっています。この講演では、札幌市からのご依頼で本校を含めた市内の高校の放送局がデートDVの予防啓発を目的として作成した動画が使用されておりまして、同年代の目線からということで分かりやすい共感できると生徒には大変好評です。この動画は11月の啓発週間にも先ほどご紹介があったような大型ビジョンでも使用されているとのことでした。

高校3年生には、3月1日の卒業式前日に配布する保健だより「卒業後に活用できる保健サービス相談機関」として「各区保健センターのエイズコールやサークルさっぽろ、性に関する相談窓口などの電話番号」などを一覧にして掲載し、困ったときに利用するように生徒の方にお知らせしています。先ほど、ご報告があった会議資料の別紙3のスライド21の札幌市の梅毒患者数にもありましたが、性感染症は年齢層別では20代以下の若者に広がっており、その大きな原因は10代の性体験者の増加であると指摘されているかと思えます。また、20代以下の年代で女性に患者数が多かったようですが、本校でのDV防止講演会後のアンケートの中で、高校2年生までに付き合った相手がいると答えた女子が男子の1.5倍いるということからも推察されます。また、同じアンケートの中で、講演会前に内容を知っていたかの問いに、知らなかった28%、知っていたが内容が違っていたというのが23%と、全体の半数以上が正しい知識を持っていませんでした。

このことから、先ほど事務局から令和5年度の札幌市のエイズ予防対策についてご提案がありましたが、今後、20代以下の若者のエイズ・性感染症の患者数を減らしていくために必要な若年層対策として、中高生のもっと早い時期から「性に関する正しい知識の普及啓発と予防啓発」が必要だと思えます。

具体例を申しますと、成人式などで配布しているリーフレットは、たとえば高校一年生に配布を拡大し、授業の教材として使ってもらい、学校でも教科書には載っていない最新のエイズの現状や予防方法、検査機関、相談方法などを確認することができてリーフレットの有効活用につながるのではと思っています。私からは以上です。

⑪ 質問・協議
(遠藤会長)

ありがとうございました。コロナ禍ですけれども、かなり色々活動していただきましてありがとうございます。

それではここで、報告事項がたくさんありましたけれども、報告事項全部で4題ありますが、それにつきまして、ご質問ですとかご意見等がございましたら、お願いいたします。

まず、私の方から1つ、検査の体制が令和4年から元に戻ったとお話をいただいたんですけれども、まだ抗体検査数はコロナ禍の前の半分以上をちょっと超えるくらいということで、ちょっと低めかなと思うんですけれども、それはやっぱり受検者の足が遠のいているという、あまり家から出ないなど、こういった考察がありますでしょうか。

(寺田医事担当
課長)

検査の件数のところで、別紙3のスライド14のところになると思うんですけれども、遠藤先生がおっしゃった通り、検査件数は令和2年でコロナの影響でぐんと下がった後、少しずつ戻ってきてはいるのですが、まだ全体からすると7割くらいになっています。札幌市の直営だけでみますと7.5割くらいになってきてはいるのですが、まだ検査自体が遠のいているのか、コロナで外出を控えているのかそこはわかりませんが、コロナの影響が出ているとは考えております。

(遠藤会長)

最近、耳にしたのですが、他の地域、北海道ではないのですが、他の地域でクリニックと行政が連携してクリニックでHIVの検査を希望される方に検査をした場合、費用を行政側が負担するという取り組みを始めようとするところがあると聞いたのですが、札幌市としてはそういった一般のクリニックと協働して、なかなか保健所に来づらかったりとか、やっている時間が限られているとかあるのでそういった取り組みの可能性はございますでしょうか。

(寺田医事担
当課長)

ありがとうございます。病院での検査をしたときの助成という話だと思いますけれども、助成については予算のこととかもあるのですが、性感染症以外にも様々な検査がある中で優先順位を考えながら私たちも行っていく必要があるというところもあって、現時点では性感染症検査を医療機関で受けた場合、診断された方などについては、HIV検査も保険診療という形で検査できますので、いまのところはそちらを優先して行っていただきたいと考えています。なのでそこを勧めるという意味も含めてポスターを作成して、性感染症にかかっているとHIVも感染しやすいといわれていますので、ぜひ検査を受けませんかのご案内しているのと、そこで保健所の方もありますとお伝えしております。

(遠藤会長)

たしかに、性感染症の既往があったり、性感染症を実際にもっていると、保険診療でHIVの検査もとれるんですけれども、そうではなく通常保健所で検査しようかなと思っていただけ、なかなか保健所もやっていないし、行けないという人に対して一般クリニックもどうかと思ったのですが、今のところでは保険診療以外では一般

のクリニックなどでは行政からの資金援助というのは難しいという感じでしょうか。

(寺田医事担当課長)

現時点ではそのような形で考えております。

(遠藤会長)

そういった取り組みが始まりそうな地域もありますので、ぜひそういったところも参考に、まだ始まってはいませんが仙台市で始まりそうな動きが出ているようです。

他、委員の先生で、何かありますでしょうか。はい、坂本委員お願いいたします。

(坂本委員)

検査は、遠藤先生がおっしゃったようにまだ戻ってきていないのですが、相談件数が令和3年度からみると倍くらいになっていて、相談内容の何か傾向とかありましたら教えていただきたいです。

(寺田医事担当課長)

相談件数が札幌市で増えているところが、別紙3のスライド13で、令和3年度が83件、令和4年度が165件で倍増しているところだと思うのですが、相談内容までは取りまとめていないので、詳細はわからないのですが、やはりメディア等で梅毒の報道とかも取りあげられているということもあって、HIVの相談件数も併せて増えているというのはあるのではと考えています。

(坂本委員)

梅毒の問い合わせも合わせたような相談があるみたいな印象ですか。

(寺田医事担当課長)

実際に、梅毒の検査を受けたいということで、HIV検査の相談にのって実際に検査につながるという方も一定数いらっしゃいますので、そういったところの影響もあるのかなと考えています。

(坂本委員)

ありがとうございます。サークルさっぽろも、検査数は戻ってはいないのですが、相談率が高いので、同じ傾向なのかなと思いました。ありがとうございます。

(遠藤会長)

他にいかがでしょうか。

(佐々木副会長)

細かい話で恐縮なのですが、エイズの感染経路別で静注薬物使用という項目があるのですが、梅毒の方では針刺し感染となっていて、2つで言い違えているのは何か理由がありますか。というのも、差し支えないのであれば、両方を針刺し感染でくくってしまうのも良いのではと思ったのですが、どうでしょうか。

(寺田医事担当課長)

集計なんですけれども、発生届の様式に沿って集計しているところなので、それに従って私たちも集計しているところです。

(佐々木副会長)

つまり、その集計用紙には、梅毒は針刺し感染と書いてあって、エイズの場合は、静注薬物というその薬物に特化した質問になっているということなんですか。

(寺田医事担当課長)

様式が手元にないので、正確な答えではないかもしれませんが、基本的には発生届のところから抜き出してまとめております。

(佐々木副会長)

職業柄、薬物という単語には反応してしまうのですが、札幌薬剤師会では Air-G さんと協働して薬物乱用防止キャンペーンみたいなこともやっていて、どうしても世間的に薬物という響きが何かネガティブな響きがあるのかなと思って、そういう言葉を感染経路にあなたはどうかなんですかっていうのにいきなり薬物と書いてあって、なんか書けるかなと思ったものですから、改められるのであれば梅毒が針刺し感染になっているのであれば、針刺し感染でよいのではと思った次第です。

(遠藤会長)

ご意見ありがとうございます。

おそらく、針刺しには2種類あって、自ら針の使いまわしの薬物などの針刺しと、医療関係などでの針刺しの言葉が混合してしまっているのではという気がするのですが、これはどちらを意図して、HIVの方は薬物と書いてあるので、医療者の針刺しという意味は含まれていないと思うのですが、実際針刺しでHIVがうつったという例は日本では1例もないので、薬物に限定しているのかなと思ったのですが、梅毒の方の針刺しはどちらを意図して書いているのかわかりますか。医療者の針刺しで梅毒がうつったというのがどのくらいあるのか、わからないのですけれど。

(葛岡感染症総合対策課長)

はい。感染症総合課長の葛岡でございます。梅毒の発生届においては、いわゆる薬物の静注薬物使用というところでの針刺しを意図しているものかと思えます。使われ方としては、HIV感染と同様で厚労省は発生届の感染経路の取り扱いをされているものかと思えます。

(後日確認したところ、梅毒発生届の旧様式に「針等の鋭利なものの刺入による感染」の項目があり、梅毒で計上している2名の「針刺し」については静注薬物使用以外での針刺しであることを確認。

HIV、梅毒ともに発生届に「静注薬物の使用」について項目があるが、梅毒は「静注薬物使用」の該当者がいなかったため表には載せていない。)

(遠藤会長)

わかりました。それがあればやはり、同じものを意図するのであれば、言葉が違うのはやっぱりわかりづらいかと思いますので、薬物という言葉を入れるかどうか、何か共通の言葉でやっていく方がわかりやすいかなと私は思いました。

(渡部委員)

2点ほどあるのですが、1点目は先ほど出ていた検査件数の件なのですが、検査の体制としては元に戻ったけれども数としては戻ってきていないというところで、コロナで外出を控えている人がいるのではということだったのですけれども、もとの件数に戻していくための特別になにか取り組みは考えていらっしゃるのかどうかということと、梅毒が令和4年にこれだけ増えているっていう背景というのはどういうものなのか、検査体制が元に戻ったことで梅毒の件数が増えたのか、何か要因があって増えたのか、その辺がもしわかれば教えていただきたいです。

(寺田医事担当課長)

ありがとうございます。まず取り組みですが、先ほど高橋さんからもありましたように、世界エイズデーでの活動をまた行っていただいでそこで札幌市の検査の方に繋げていただくとか、あとはポスターの方は医療機関の方から繋げてもらいたいという思いがあって作ったり、そういったところで少しでも、保健所がやっているHIVの検査ということを知って1人でもつなげてもらいたいという思いでやっています。

もう1点、梅毒が増えている理由になると思うのですが、メディアも含めていろいろな理由が議論されているところだと思うのですが、私たちとしては単一の要因だけではなく複数の要因が絡んだものと考えています。その1つで、先ほどあったように梅毒が広く知れ渡ることによって患者さんが受診とか検査につながりやすいということもありますし、医療機関の方でも診断につながるということも増えてきているといったようなものもあると思っていますし、その他にもメディアでよく挙げられている若年者の性行動に変化があった可能性であったり、交通や通信の発達によるSEXネットワークの拡大の影響であったり、あとはピルの内服による避妊行動などバースコントロールの方法の変化などもそういった要素なのかなと考えています。いずれにせよ、いろいろな複数の要因が絡んだ結果なのかなと思います。

(遠藤会長)

はい。たしかに梅毒は令和4年になって数倍になっているというのはすごく大きな変化かなと思うのですけれども、我々の場合HIVの側から見ると梅毒は性感染症ですので、梅毒がこれだけ一般の医療機関で診断されていると思うのですが、その時にどれだけHIVの検査もしてくれているかというのが非常に気になるところで、実際に梅毒診断するときは採血すると思うのですが、梅毒を疑った時点ですでに性感染症疑いなので保険診療でHIVもとれるはずなんですけれども、おそらくほとんどこれだけの数が診断されているけれどもHIVの検査をとられた数はすごく少ないのではないかなと思うんですよね。というのも、我々アウトプットしか見えないのですが、実際に梅毒と診断がついたので検査してHIVがわかって受診されたという方があまり多くないのですね。一方で、カリニ肺炎などのエイズを発症してこちらに来られた方によくよく聞いてみると、数年前に梅毒の治療を受けてましたという方はすごく多いんですね。その既往歴で1番多いのは梅毒なんですね。ということはその段階では

梅毒と診断されて梅毒の治療を受けたけれども HIV の検査を受けられていない、そして結局最終的にエイズを発症して我々のところに来てしまうというそういうところばかり見ているので、せっかくこれだけ梅毒を拾いあげられているのであれば、この中にもかなりの HIV の同じ感染経路を考えるとということを考えると、含まれているのではないかとということで、そういったところへの啓発というのは非常に大事なと思うのですが、先ほど、パンフレットは患者さん向け、患者さんに見てもらうためのものですね。医療者向けのリーフレットをホームページにの載せたというご報告をいただきましたけれども、それはどのくらい閲覧されているのでしょうか。ホームページの中に入っていかなければ見られないものですよ。そうすると、閲覧の件数なども調べればわかると思うのですが。なかなかそういったところって興味のある人、意識の高い人しか入っていないのかなという気もして、もう少し積極的に梅毒を診断・診療している施設に対して、とりましようというような働きかけができたならという風に常々思っているんですけども、その梅毒診たらとりましようというのをホームページに載せても、そこになかなか行きつかないのかなと思うのですが、その点はどうでしょうか。これは医療機関に患者さん向けのポスターを配ったということなんですけれども、医療者向けにそういったものを配布するというのはいかがでしょうか。

(寺田医事担当課長)

はい、まず梅毒陽性者のうち HIV 検査を受けた人の割合というのを梅毒の発生届から抽出してみたのですが、これが皆様高いと思われるか低いと思われるのかわからないのですが、36%くらいとられているようです。なので、これをどうやって上げていくかということだと思います。やはり、医療機関向けにどうやって周知していくかということになると、医師会さんとの協力をしながらという形になると思うのですが、パンフレット自体も医師会さんのご意見も聞きながら作成したのですが。いかがでしょうか。

(後藤副会長)

札幌市医師会の後藤です。ご指摘ありがとうございます。たしかに、ポスターにつきましては、医療機関向けに周知しましてポスターをみて、例えばかかった患者さんが私も一緒に検査してほしいという風に申し出て、とするようなすすめるために出しています。たしかに早期発見に対してなので、先ほどのお話のありました梅毒の場合 36%しか、HIV 検査をしていないということを考えると、両方保険診療で症状があればとることができますので、執行部で検討しましてこういった性病を関係する泌尿器科会とか、産婦人科会とか相談して普及啓発を務めていきたいと考えております。以上です。

(遠藤会長)

はい。ありがとうございます。ぜひ、そういったところをやはり色々な医療機関に対して、出張研修という HIV 啓発活動に行くことがあるのですが、やはりほとんどの医療機関で、性感染症があった場合 HIV 検査を保険でとれるということをご存じないんですね。で

すのでこのパンフレットにも医療機関にご相談くださいと書いてあるのですが、たとえばかかった病院で梅毒だといわれたときにこれも調べてくださいといったときに、調べますねと言ってくれるところがどのくらいあるのか、保険診療と知らなければ保健所とかで調べてもらってくださいという風に流されてしまう可能性もあるのかなということ、やはり、性感染症の既往があるだけで保険診療とれるということだけでも、やはり医療機関がもっと知ることでハードルが下がるのかなと、厚労省からも通達出てましたけれども、医療機関での検査が少ないハードルが2つあって、1つは保険で取れないと思っているということと、もう一つは、文書での同意が必要だと思っている医療機関が非常に多いということですね。口頭で向こうからとってくださいと言われれば当然ですけども、口頭の同意だけでとることができるということもやはり知られていないことなので、この2つが大きなハードルになっているということで、厚労省から通知は出てはいるんですけども、なかなか浸透していないのかなという印象です。ぜひ、医師会の方でもお願いしたいと思います。

(渡部委員)

今のお話を聞いていて、さっきの梅毒検査を受けた方でHIV検査率が36%というのは、私の中では案外多いなという風な印象を持ったところだったのですが、じゃあどうしてHIVに繋がっていないのかなという風に見たときには、性別でいくと女性と男性と、女性の梅毒の感染者が案外多いというところと、あとは感染経路別のところでみますと、同性間の性的接触の男性のところが少ないとみますと、梅毒検査を受けられている人の対象というのが、異性間の人達が多いのかなという風に思うと、HIVの1番ターゲットといえますか、感染を注意しなければいけないかなという、男性同性間のところへ梅毒検査ですとか、梅毒検査からのHIV検査というところへつながっていくような取り組みがあると良いのかなという風に思いました。感想です。

(宮島委員)

すみません、また少し違う話になるんですけども、昨年度から委員をさせていただいております、令和4年度の予防対策実施状況の中の若年層向け施策のところなんですけれども、昨年度の実施計画では、思春期ヘルスケア事業（通年）というのが入っていたのが、今年度の実施状況からは抜けていまして、さらに令和5年度若年層向け施策のところからも抜けているんですけども、これについてどういった理由なのかお聞かせいただければと思います。

(斉藤課長)

思春期ヘルスケア事業を担当しております母子保健の方から回答させていただきます。思春期ヘルスケア事業ですけども、やり方として2種類のものがありまして、普及啓発、学校に保健師等が出向いて事業を行うというようなもの、養護教諭の方たちとネットワークを作ってその学校や地域の課題にあわせた対策を考えていくというようなことがありまして、学校に出向いて行うものについては、現在多数なところに行っておりまして、学校側さんとしてしっか

り自分たちでも教育できるようにというところを目的にしている部分がありまして、現在新規校を対象に行っているところがあります。なので、通年で事業としては実施をしておりますが、どちらかというと学校さんと連携して、学校さんも自分たちで普及啓発や対策を一緒に考えていけるようなネットワークの構築というところに事業としてシフトしているところがありますので、今回やっていないわけではないのですが、そういったような形での出し方になっております。

(宮島委員)

ありがとうございます。思春期ヘルスケア事業なんですけれども、さきほど谷口先生の方からも高校で3年間にわたって系統的に性教育の方を行っているというお話がありましたが、小学校・中学校でもやはり系統的に行っていくことがすごく必要だと思っております。保健体育の教科書のつくりというか、私もすごい詳しくわかっているわけではないのですが、やはり必要な健康のことを小学校でやったことを中学校で深めて、また高校でさらに深めるという作りになっているということで、同じことを繰り返し学んでいくような流れになっているんですね。なので、やはりその1回性感染症の話を授業で聞いた、だからしっかり知識が身についたということではなくて、やはり中学校3年生で性感染症やるんですけれども、やったものをまた高校1年生でやるとかってなると、市教委の方でも助産師さんに来てもらっての講演、中学校でも隔年で行っているんですが、思春期ヘルスケア事業なんかもまたその1つの機会として、すごく学校としてはうまく活用していきたいなという思いもありまして、やはりそういう中で保健師さんに来ていただき、専門家の方に話を聞けるというすごく貴重な機会だと思うので、エイズ対策としてもこの事業が続いていくのであれば、入れていっても良いのではないかなというのが個人的な意見です。以上です。

(遠藤委員)

先程、谷口委員の方からもご意見ありましたが、やはり若年、中高生に対しての新しい対策などということですので、そのあたりも含めましていかがでしょうか。

(斉藤地域保健・母子保健担当課長)

思春期ヘルスケア事業、先ほどからお話をいただいておりますが、事業形態としては先ほど申しあげたように保健師が直接お子さんに話すということもありますが、学校として継続的に私共保健師等がやったものについて深めていっていただけるような機会、年に1回保健師が行って話すそこだけではないという話もいただきましたので、そういったような形で深めていただけるような機会と捉えていただければと考えております。もちろん、こういった現状をみますと、中高生、若年層、エイズだけではなく今望まない妊娠ですとかそういったような性行動の低年齢化に伴って中学生が妊娠をしていたりですとか、そういった問題もありますので、HIVに限らずそういった性行動については私も普及啓発しっかり行っていかなければならないという風には考えているところです。

(遠藤会長)

ありがとうございます。

(満島委員)

またちょっと別の角度からなんですけれども、先ほどエイズ対策実施状況のところ、世界エイズデー札幌実行委員会の高橋様より活動の報告があったと思います。その中で街頭ビジョンと YouTube、ライトアップの3つに参加をさせていただいたんですけれども、参加させていただく中で、街頭ビジョンに参加させていただいた際に非常にたくさんの方から反響をいただいたのですが、YouTubeについてもそうだったんですけれども、その反応の内容がどちらかというと、市民の方々の生の声だとは思いますが、はじめて HIV がどのような病気か知ったという声が非常に多くあったかなと思っていましたね。若年層からの啓発活動がどのような効果があるかというのは確実に効果があるところだと思うのですが、やっぱり一般市民にもより強固な啓発活動を行っていかねばならないんじゃないかなという風に思っていて、なので、昨年行った世界エイズデーの予防啓発キャンペーンというのはもう少しより強固なものとして行うことができたらいいんじゃないかなと思っております。

現在、医療機関の方からメディアの方、教育関係の方まで今こちらに性感染症及びエイズに関わる方々が集っていらっしゃると思うのですが、この繋がりを生かして、よりこういうことをやっているんだということを委員側からの発信もできたらいいのではないかなと思っておりました。

これに基づきながら2点ほどなんですけれども、まず1点目が昨年参加させていただいた中で主に HIV の啓発ということで今回事業に参加させていただいたわけだったんですけれども、たとえば自治体単位で見ますと、福岡市なんかは梅毒に限った啓発キャンペーンを行う、クラミジアに限った啓発キャンペーンを行う、などの取り組みをなさっていると思います。

HIV のみではなく今増えつつある梅毒というところに関してより強固なフォーカスをあてた啓発活動は絶対に必要かなと思っているのですが、そういったところはいかがでしょうかということと、あともう一つが梅毒の感染が広がっているのは複合要因だというお話が先ほどあったと思うんですけれども、その中で若者の SEX ネットワークというのが広がっているところもあるんじゃないかという話があったと思います。メディアの中でも様々にご議論されているところだとは思いますが、やはりその SEX ネットワークにそのまま直接その啓発活動としてメスを入れていくというのにも必要かなという風に思うんですね。リーフレットやポスターも一定数の効果がありながら、それだけでなくインターネットの世界に切り込んでいくというのにも必要かなと考えているんですけれども、いかがでしょうかということ、2点質問でした。

(寺田医事担当課長)

ありがとうございます。啓発については、やはり委員からあったように色々な人が関わりながらやらないといけないなと思っていて、私たちも HIV のこともっと知っていただきたいという思いであるものの、どのような媒体でやっていくのが1番効果があるのかと

というのは悩みながらやっています。その中で世界エイズデーの中では、今回 YouTube を使ってみようとか、いろいろな方向にトライしているところでもあります。梅毒に関しても同じで、どのような媒体でどういう風にやっていくかというのは、引き続き検討していかないといけないのかなと思っております。

(満島委員)

ありがとうございます。YouTube に関しての感想なんですけれども、世界エイズデーの実行委員会で使ったその YouTube アカウントのフォロワー数に比例して、再生回数は非常にのびていたように思っていて、同じようなコンテンツを挙げているほかのチャンネルからみても、伸びは激しかったと思うんですね。なので、その SEX ネットワークに1つ切り込んだ形になるかなと思いますので、ぜひそういう部分で、どういうところからこう啓発していくのかというのは引き続き検討していただければと思う次第です。ありがとうございました。

(遠藤委員)

ありがとうございます。一般市民、医療機関、色んなところへの啓発が大事かと思えますし、より対象を絞ったところに強く啓発していくというのも非常に有効なのかなという風に考えます。

(後藤委員)

これは医師会の意見ではなく、私個人的な意見ですが、今の話を聞きまして、そういう医療情報を知らない方と考えた場合、梅毒・HIV あとこちらに書いてあるコンジローマとかクラミジア、例えば病院にかかってあなたクラミジアですねと言われたら、他の病気はないんだなと考えてしまう人もいるかもしれません。そうすると、クラミジアにかかっている人は HIV にかかっているかもしれないし、梅毒にもかかっているかもしれないというそういう病名がはっきりわからないことがたぶん多々あると思うんですね。たとえば、今出ました福岡市では梅毒に限ってですとか、他の都市ではクラミジアに限ってとやっていると思うんですが、やはり性病として全部ひくくめて市民の皆さんにこういった病気がたくさんあって、そしてそれぞれは決して1つだけではなくて2つとか同時にかかる可能性もありますよということと言わないといけないのではないのかなと満島さんのお話を聞いて思いました。

残念ながら札幌市エイズ予防対策基本方針なので、エイズに関して主にやっているのですが、やはり梅毒も流行ってますし、これから他の感染症に関してももちろんあるかもしれませんので、そういったことも多くみていかなきゃいけないような感じになってくるのかなと思いますし。

感想を述べさせていただきました。

(満島委員)

今のお話、ありがとうございました。補足で思い出したことがあるんですけども、当事者向けの出会い系のマッチングアプリ、ゲイ向けのアプリとかでは、その性感染症すべてを検査できますよというような広告などが出てたりして、当事者も非常に興味を呼んで

いると最近言われているんですね。なので、そういうPRの仕方も必要かなと思いましたが、限っていくということも必要かなと思いましたが、どちらも並行して本当に大切な部分かなと思いましたが。感想みたいになりました、ありがとうございました。

そして、そこから、思い出したことがあるんですけども、様々な啓発をしていく中で、性感染症の予防というのもそうなんですけれども、予防に関する医療的な情報提供というのも必要かなという風に思ったんですね。たとえばHIVに限って言えば最近ゲイの当事者がPrEPを活用するというのが非常に最近増えてきていて、ただ個人輸入なので、それが適切に使われているのかどうかという部分について非常に難しい部分があります。そういうPrEP利用者は札幌市もいるかと思うので、そこについて公的な機関からバックアップといいますか、正しい情報を届けるということも必要なのかなという風に合わせて感じました。以上です。

(遠藤会長)

ありがとうございます。こちらエイズ対策推進協議会といいますけれども、後藤委員が言われたように幅広い性感染症を、他の性感染症の予防をするということもHIV・エイズの予防になりますし、他の性感染症を早期に見つけることは、HIVの早期発見に繋がるということだと思いますので、決して他の性感染症を含めることは悪いことじゃないですし、どんどんそういったところを啓発していくのは大事かなと思います。よろしくお願いします。あとは、いかがでしょうか。

(坂本委員)

HIV抗体検査件数のところで、1次検査陽性が6とありますが、結局、2次検査が陰性だったという人もいます。この時に、はばたきが行っている派遣カウンセラー事業でカウンセラーを呼んでいただいています。報告書を見ると1次検査で陽性だと思ってしまっていて、そのあと結局2次検査が陰性だったところで、カウンセラーが関わるのは大事だなと思って報告書を見させていただいています。

これが本当に初期感染の状況で、もし3か月経ってから受けてねっていう風に言っているけれども、もしかしたらリスクから近いところで受けている人がいた場合、PCR検査とかも導入してもらえたら取りこぼしがなくなるのかなと個人的に思ったことがあったんですけども、そのあたりはどうでしょうか。

(寺田医事担当課長)

検査方法については、今1次検査と2次検査でやっていて、1次検査陽性者6人ですが、実際は確認検査で陰性だった人が2人いらっしゃいますので、4人になります。PCRを導入するかというところは、まだ私たち検討はしてなくて、基本的にはしっかりとウィンドピリオドの話とかをした上で、検査をしていくという方針をとっております。

| | |
|-------------------|--|
| <p>(坂本委員)</p> | <p>それに関わると思うんですけども、令和5年度の札幌市のエイズ予防対策実施計画のところで、職員研修のところで、さきほど、報告していただいて5月にやる研修を内容を強化していきたいと考えているとおっしゃっていたんですけども、具体的にどんな感じなのかなというのが今の段階でわかれば教えていただきたいです。</p> |
| <p>(寺田医事担当課長)</p> | <p>はい、これは先ほど説明させていただいたように、毎年やっていたものなんですけど、コロナが流行して対面ができなくなったということで資料提供だけしているというものなんですけど、コロナも社会的にも受容されてきていますので、5月には対面でやりたいと思っています。やはり対面ですることによって今まで資料だけ配っていたものよりも知識としては身につくと思いますし、今ちょうどここで議題あげられたように1次検査陽性で確認検査陰性だった人に対してどのように説明していくのかということも含めて職員にはしっかり研修をしていきたいなと思っております。</p> |
| <p>(遠藤会長)</p> | <p>ありがとうございます。</p> |
| <p>(後藤副会長)</p> | <p>あと、すみません。質問なのですが、検査を受けられた陰性の方を含めて年代層はどうなっているのでしょうか。若い人が多くなっているのでしょうか、あともう1つはリピーターで何回か受けられる方なのか、それとも初めて受けられる方なのか、そういったことが啓蒙活動に繋がっているのかどうかと関わってくるのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p> |
| <p>(寺田医事担当課長)</p> | <p>はい。まず検査を受けた年齢層ですけども、夜間と休日の集計をしていまして、それをみると令和4年度の夜間検査もっとも多いのが20代で3割前後くらい、その次が30代で2割弱、その次が10歳代で2割弱、50歳代も10%くらいいるというような構成になっております。リピーターに関しては、令和4年夜間と休日だと、はじめて受けられたという方が45%程度、2回目だと20~30%くらい、3回目だと10%、4回目だと数%、5回目以上が10%程度という形で、一定のリピーターの方もいらっしゃいますし、初めて受けられるという方も半分くらいいらっしゃいます。</p> |
| <p>(後藤副会長)</p> | <p>しっかりと啓蒙活動ですとか、やっていることがつながっているのではないのでしょうか。</p> |
| <p>(遠藤会長)</p> | <p>はい、ではその他いかがでしょうか。</p> |
| <p>(沼田委員)</p> | <p>エイズ予防対策実施状況と実施計画のところで、先ほど坂本委員からも研修の内容はどんな感じですかということにも似ているのかなと思うんですけども、HIV検査担当者向け研修会の職員派遣というのが状況の方にも実施計画の方にもあるんですけども、これって具体的に何の研修か、もしわかれば教えてほしいです。</p> |

(寺田医事担当課長)

はい、これですね。HIV 業務に初めて就く医師職の方がいるのですが、8月の東京でやっている研修の方に参加するというようなものです。そこでHIVの検査はどういうようなものかといったところを研修受けるという、そこへの職員派遣をしています。

(山口部長)

エイズ予防財団主催の研修です。

(沼田委員)

ありがとうございます。当会も電話相談を毎週火曜日にやっていて、必ず電話相談員になるために研修というのを1年くらいかけてやってデビューしてもらっている形なんですけれども。その中で毎年、道内だったり札幌市内ではばたきさんとかで実施している検査相談者担当研修とかあるんですけれども、そういうのにもなるべく参加して知識のアップデートだったりとか、色んな相談拠点病院の看護師さんだったり、保健所の保健師さんとかと出会って色々お話する機会があるので、そういうところで色々スキルアップをもらうように、うちの当会の中でもしているの、ぜひ保健所の保健師さんたちの参加状況はレッドリボンとしては把握していませんけれども、ぜひそういうところで更にアップデートしていくといいのかなという風に思いました。あと、私たちも色んなイベントとかにも参加させていただいて啓発活動をしているところなんですけれども、普及啓発事業のところリーフレットやカードの配布とかっていうようなこととか記載があるんですけれども、実際にどのようなリーフレットやカードを配布しているのかなというところ、若年層対策のところでもあるかなと思うので、私たちも普及啓発の資料を何か良いの、ないかなと考えているときがあるので、そういうのをシェアしていただけるとありがたいなと思います。

(遠藤会長)

よろしいでしょうか。今、出ていましたけれども、検査を勧めるのも非常に良いのですけれども、検査の説明をする立場の方もやはり一定数で偽陽性ということもありますので、そういったときの説明も間違ってしまうと大変なことになりかねないということですので、医療機関でもそうですけれども、やはり検査の意味もしっかり知ったうえでということは大事かなと思います。

(加藤保健師)

こちらは、成人式で配布しているリーフレットになりまして、保健所の母子保健係の方で作成しているリーフレットにエイズのことも載せていただいているので、私たちの方でも配布しているのと、夜間休日検査受けられた方にもこちらのリーフレットを配布させていただきます。

(遠藤会長)

時間がちょっと押ししてしまいましたけれども、ここで報告についてのご質問と計画についてもご議論されましたので、ここでお諮りしたいと思いますけれども、令和5年度の札幌市エイズ予防対策実施計画につきまして、事務局の議案のとおり承認ということで、よろしかったでしょうか。

はい、ありがとうございます。異議がないということで、こちらの方ですすめて、また今日出た意見の方も踏まえまして、次年度、令和6年度以降すすめていただければと思います。時間を押してまますけれども、さらに全体を通しまして委員の皆様から HIV に関して今回の計画に関わらず、何かご意見ですとかご質問、また困っていること等なにかございましたら、この場で色んな職種も集まっておりますので。

(高原委員)

先ほど、委員からの発信も重要だということもお聞きして、私も PTA の立場から、こういった状況とか啓発活動とかの内容について発信したいという風に思ったのですが、私も日々このことについて関わっているわけではなくて、皆さんに比べると圧倒的に知識が少ないのかなと思っています。年に1回この協議会に参加させていただいて、計画だったり報告だったり、こういったことされているんだというのは理解はしているんですが、日々自分から調べたりしているわけではなくて、不勉強というののもあって実際に文字では内容は見ているつもりではいるんですけども、その内容というのが具体的にどういったものなのかというのは、ちょっとあまり詳しくなくて、もし事務局があまり負担にならない形で可能であれば、こういった活動とかを実施される際に何かメール等で全部でなくて全然構わないので、いくつかご案内等いただければそれを受けてまた PTA 協議会の中等で発信できるかなと思っていますので、そういったことももし可能であればご検討いただければなと思います。

(遠藤会長)

そういったことは可能でしょうか。

(寺田医事担当課長)

はい。

(遠藤会長)

委員のメーリングリスト的なものがあるかあれですけど、回していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

困ってることという私から1つなんですけれども、我々 HIV 診療してますけれども、今1番困っていることとして、他の医療機関で HIV があってコントロールがついていて、健常人と同じような生活で良いような状態になっている人が他の病院に何か他のことでかかったときに HIV 以外のことで、例えば風邪をひいたでもいいですし、最近あったのはコロナのワクチンを打ちたいということで北大ではコロナワクチン打ってませんので、打ってもらってくださいということで主治医の許可も得ているということで打ちに行ったら、HIV ということを伝えたら、うちではワクチン打てませんという風に断られたりとか、そういった診療拒否的なことが非常に多いんですね。いまリスト化もしているんですけども、相当日々そういったことがあるということで、やはり HIV があるというだけで診療拒否ということが起こっているというのが現状ですね。それが本当に今、患者さんも困っていますし、我々も困っているところなんですけれ

ども、厚労省からもそういった HIV 感染者だからといって診療しないということは医師法にも違反することだということもしっかり明文化されて出されているんですけども、やはりそういったこともあまり広まっていないのかなということですね。

ですので、やはりここはどちらかというところと予防とか早期発見といったものを議論する場ではありますけれども、HIV に感染していることがわかったら医療機関にもかかれなくなってしまうと思ったら検査も受けるものも受けなくなってしまうのではないかということなので、最終的には予防とかそういったものにも繋がるのかなということなので、できれば医療機関側での差別的なこともなくなればいいなと思っております。なかなかそれも以前から、取り組もうとはしているんですけども、有効な手段がなくてということで、こういったことをすれば解決できるのかといったところで、後藤委員からご意見をいただければ。

(後藤副会長)

前回の時にもご指摘いただいて、一応執行部の方でもあげていただいて、その場合は執行部の方で口頭でということで皆、周知しましょうということだったのですが、まだそういったことがあるということは残念なことなので、遠藤会長からの情報を共有して執行部の方で検討して、対応を考えたいと思いますので、よろしくお願います。

(遠藤会長)

ぜひ、一緒に考えていければと思います。他、いかがでしょうか。

(藤枝委員)

この会に私も4年ぐらい参加させていただいて、ちょっと不思議なことが1個ありまして、こうして皆さんから意見があったように、実は今日この会議に来ると今年度の計画はこのように決まっているというのを拝見していて、私も委員で関わらせていただいたので、今思うのは、僕らラジオ局なので、いま皆さんの色々なことを聞いていると、うちの会社としてできることが結構あるなという風には思っていたんですね。時計台をライトアップした事は、恥ずかしい話僕ちょっとこの情報もってなかったです。なので先ほど、この情報を委員でも共有いただければということで、例えば私も媒体でこういうことをやってるよということもできますし、うちの放送局は聴取率的な部分でいうとまだ未熟なんですけれども、高校生の方が聴いている番組もありますし、中学生が聴いている番組もありますし、今度薬剤師さんと一緒に1日かけて薬剤師さんの特別番組をやったりということもあるので、うまく活用してというか声をかけていただければ、相談していただければ、番組でこういったことをやるということ、その費用的な部分はさておき、私も委員として札幌市でやっているこの活動を応援したいというか広めないといけないという風に自負しているので、随時連絡をいただければ、せっかく1年に1回集まって話をしているのであれば、そのことを年間、皆さんと情報共有できればなという風に思いますので、ぜひよろしくお願いたします。

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>⑫ 他質問・報告事項等 (遠藤会長)</p> | <p>貴重なご意見ありがとうございます。せっかくこれだけの色々な職種の人が集まっていますので、年間を通して色々お互い共有しながら活動していければと思います。それでは、かなり時間を押してしまいましたけれども、これで本日の議事を終了させていただきたいと思います。</p> <p>久しぶりの対面ということで、活発な議論ありがとうございました。委員の皆様には、所属されている職場又は団体等を通じまして、積極的なエイズの蔓延防止に向けて啓発活動を今後もお願いしたいと思います。本日は皆様のご協力をいただきまして、無事議事を終わりました、ちょっと長くなりましたけれども、すみません。</p> <p>閉会にあたり、事務局の方から連絡事項ございましたらよろしくお願いたします。</p> |
| <p>⑬ 連絡事項 (寺田医事担当課長)</p> | <p>遠藤先生、ありがとうございました。また皆様、貴重なご意見いただきありがとうございました。</p> <p>いただきましたご意見を可能な限り反映させていくような形で、令和5年度対応していけたらと思いますので、また引き続き皆様のご協力につきまして、よろしくお願いたします。</p> <p>次回の会議ですが、年1回という形で行っておりますので、来年の1月～2月くらいの会議開催について、また時期が近くなりましたらご案内させていただけたらと思いますのでよろしくお願いたします。</p> |
| <p>⑭ 閉会 (寺田医事担当課長)</p> | <p>それでは、以上をもちまして、札幌市エイズ対策推進協議会を終了させていただきます。</p> <p>本日はご出席いただき、ありがとうございました。</p> |